

金沢大学資料館だより

No.25 Feb. 14 2005



Natuurlijke Historie van Nederland
De Flora
2ページ参照

—目次—

- オーデマン著『オランダの野草図鑑』と
スロイスの「植物学」講義 …2
- <紹介>
金沢大学資料館資料目録2
『石川県専門学校洋書目録
明治日本の近代化に貢献した洋書』 …4
資料館彙報 …6

オーデマン著「オランダの野草図鑑」とスロイスの「植物学」講義

板垣 英治*

「オランダの野草図鑑」



Natuurlijke Historie van Nederland,
de Flora

By Oudemans, C. A. J. A.

G. L. FUNKE, Amsterdam, 1869

附属図書館医学部分館蔵

写真は50頁253～256番の植物(真中の図は
Symphytum officinale L.(ヒレハリソウ, コーンフ
リー)である。

1869年,アムステルダムで発行された,オランダの野草464種のカラースケッチが掲載された植物図鑑であり,図譜(図版91頁,23×28cm)1冊と解説書(23×13.3cm)3冊(I.472頁,II.453頁,III.416頁)からなる初版本である。序文は1858年にロッテルダムで書かれているから,出版されるまでに11年間経っていた。蔵書印「金沢藩医学館」が示すように,この図鑑は明治4年(1871)にスロイスが金沢医学館に来た際に持参したものである。これまでに,本図鑑について記されたものがいくつかあるが正確ではない。

本図鑑には,草本類がほとんどで,灌木類はわずかしが集録されていない。写真に見られるように,彩色された各草本の全体像と共に,花と果実,種子のスケッチが詳しく記載されてい

る。また,解説書には植物の各部位の形態に関する説明が記され,さらに図版部の植物の各属の説明がある。植物図には索引番号が記されているのみであり,このままでは植物名は分からず,解説部で各図版の説明を調べる必要がある。図版はキンポウゲ科植物(11種)ではじまり,ウラボシ(しだ)科植物(13種)で終わっている。

各植物は学名とオランダ名が記されている。例えば377番の *Crocus verunus* All. (voor jaars-Crocus) とあり,両者は「春咲きのクロッカス」を示している。これは *C. sativus* L. であり,一般にはサフランと呼ばれている薬草である(次頁の写真)。

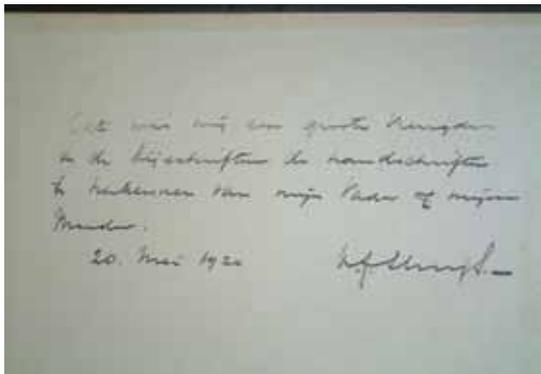
本書によりオランダの原野に生える野草の姿を楽しむ事が出来る。また,我が国の植物と比較して見ると,同じものや類似したものが多く見られ,興味深いものである。

スロイスは基礎医学として植物学,動物学の講義を行った。その藤本純吉筆記の講義録(金沢市立玉川図書館蔵)には,多くの植物名が学名で記載されている。また,薬用植物が多く引用されている。それらは本図鑑に掲載されていることからスロイスは植物学の講義の参考資料としてこれを使用したことを示唆している。例えば,「スロイス植物学」の講義録には,なす科植物(*Solanium*)のチョウセンアサガオの項の説明で,

「第四種 *Datura stramonium* 此種ノ花ハ白色ニシテ漏斗状ヲナシ大ナリ其实ハドースフリフト」ニシテ無数ノ針ヲ有ス(中略)是毒草ニシテ薬局ニ供ス」

とある。これは図譜51頁の260図のチョウセンアサガオであり,この番号には「桃色」マークが

され、学名 *Datura stramonium* が、手書きされている。他にも多くの植物図に学名が書き加えられている。この手書きを行ったのは、スロイス夫人 (Maria Agnes Jansen Hooijman) である。一部はスロイス自身も行っていった。このことは本書の表紙裏に、明治6年に金沢で生まれた長男 Lee K. F. Sluys が大正9年(1920)5月20日に金沢医科専門学校を訪れたときに、本書を見て、次の写真のように証明している。



「この本の(植物名の)署名は私の父と母のものであることを認めることは大きな喜びである。」

1920年5月20日 K.F. Sluys

この長男はオランダ海軍に所属し、軍艦 H. Ms. Hertog Hendik 号の艦長として、大正9年5月に来日し、同月20日に生地金沢に来た。その時に、かつてのスロイスの弟子(藤本純吉ら)たちに会っており、彼の名刺が藤本文庫に残されている。夫人が植物学、動物学の講義の草稿を書いたとするものがあるが、それは確かではない。当時21才であることから、少なくとも講義の草稿を書くことが出来るほどの高等専門教育を受けていたとは考えられない。

「植物学」

スロイス 口述、藤本純吉 筆記、自筆稿本、
金沢市立玉川図書館近世史料館蔵

スロイスの植物学講義の講義録である。内容は、巻之一では、植物の化学的組成、植物成分、植物の各組織の形態などを扱い、

「植物ノ有機抱合ノ学問八大ナル舎密術ヲ要ス又屢顕微鏡ヲ要ス」とあり、植物成分についての記載をしている。内容的には、当時の最新の植物学であったと見られる。巻之二では、リンネニウス(Linne)系統による植物分類学と、各論からなり、第一族で裸子植物、球果植物綱 Coniferae の松科植物で始まり、以下、第八族交叉花状植物 あぶらな科までが記載されている。ここでは各々の属の植物をいくつか例示して簡単に紹介している。引用した植物がほとんどオーデマンの植物図鑑に記載されていること、さらに引用した植物名の順とこの図鑑に記載の順が同じもの(例:まめ科植物)がある事から、この図鑑を基にこの講義を行ったことは明らかである。

引用された多くの植物が、ほとんどが薬用植物であり「薬草ナリ」や「薬局ニ供ス」の文字が多く見られる。やはり基礎医学の認識の上で植物学の講義がされていたことが読み取られる。

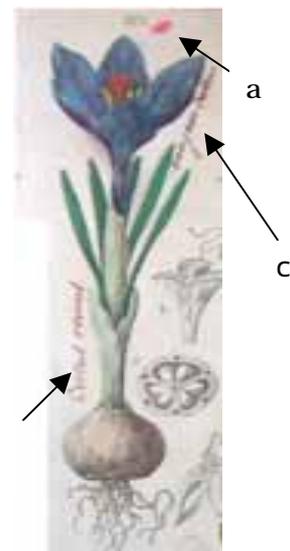
本植物図鑑は130年前前に出版されたものであり、非常に貴重な書籍である。本図鑑を初めて目にした金沢医学館の生徒達は金沢とオランダに同じ植物が生育していることを知り、きっと驚きと興味の目で虜になったと想像される。

377.

Crocus veruns All.

Voorjaar Crocus
春咲きクロッカス、
サフラン

- a. ピンクの印
- b. 夫人の記載した学名
- c. オランダ名



*金沢大学名誉教授、資料館客員研究員

< 紹介 >

金沢大学資料館『石川県専門学校洋書目録 明治日本の近代化に貢献した洋書』 (金沢大学資料館目録2) 2004年8月

谷本 宗生*

金沢大学資料館は、「金沢大学における学術研究資料を系統的に収集、整理及び保存し、教育研究に資することを目的と」(金沢大学資料館規程第2条)して、1989(平成元)年4月に設立された学内共同利用施設である。主な収蔵資料は、暁烏敏の陶磁器コレクションをはじめとした美術資料、小中屋文書をはじめとした古文書資料、北陸人類学会収集資料をはじめとした考古学資料、第四高等学校の物理機器をはじめとした科学技術史資料、そして前身校を含む大学行政・法人文書資料などである。

資料館が所蔵する第四高等学校物理機器92点(音響学関係機器7点、光学関係機器27点、熱学関係機器5点、電磁気学関係機器47点、重学関係機器6点)については、資料館資料目録1として、『金沢大学資料館収蔵 第四高等学校物理機器図録』2004年1月に図解入りで簡潔にまとめられている。図録作成以前は、明治期に購入された多くの物理機器については購入年を特定する資料が乏しかったが、金沢大学文・法・経済学部の書類庫に保存されていて新たに資料館に移管された第四高等中学校関係文書のひとつ「旧石川県専門学校敷地並資産引継書類及目録」(1888年)によって、石川県専門学校(明治14~20年)で機器242点が購入されたことが判明したという。

この四高物理機器の図録に引き続いて、資料館目録2として編集発行されたものが『石川県専門学校洋書目録』である。これは、先にも触れた文・法・経済学部の書類庫に保存されていた四高関係文書の「旧石川県専門学校

敷地並資産引継書類及目録」を基に、「第四高等中学校洋書支給命令票」や『第四高等中学校洋書目録』などを加味して、板垣英治(資料館客員研究員、金沢大学名誉教授)が金沢大学附属図書館・石川県立図書館・石川県立金沢泉丘高等学校図書館の蔵書調査を実際に地道に行った結果である。それによって、現存する石川県専門学校の洋書は418種類575冊であることが判明したという。筆者(谷本)がかつて『第四高等学校関係資料リスト』(1999年)を編集作成するために文・法・経済学部の書類庫を確認した際には、「旧石川県専門学校敷地並資産引継書類及目録」の存在には気付いていなかった。

この洋書目録をとおしてみると、当時としては法・理・文学部の全般にわたる専門書の一覧を確認することができる。筆者の専攻分野である教育学に関しても、スペンサーやジョホットらの「教育学」が挙げられる(37頁)。1881年7月、中学師範学校の教則改正して設置された石川県専門学校(予備科3年、法学科:日本法律・英国法律・仏国法律・羅馬法律・列国交際法・法律・心理学・論理学・歴史・和漢文、理学科:物理学・地文学・地質学・金石学・植物学・動物学・生理学・数学・図画、文学科:和漢文・英文・歴史・論理学・政治学・経済学・哲学3年)の教育水準の高さがこれだろうかである。

当時の石川県専門学校について、その出身者で“加賀の三太郎”の一人として知られる西田幾多郎は「金沢には石川県専門学校といふ学校があつた。…明治の初年或は旧藩の頃から設立せられたもので、名は色々変つ

たらしいが、当時に於て外国語で専門の学業を授ける学校であつた。東京を除いて、地方では、その頃、此の種の学校は殆んど他になかつたらうと思ふ。」(西田幾多郎「山本晁水君の思出」『西田幾多郎全集』第12巻、1966年、245頁)と証言する。実際に、石川県専門学校では専門の洋書類を教科書として多数冊購入して、生徒に有料で貸し出して授業を行っていたようである。高価なうえ取り寄せが非常に困難であった洋書教科書類を生徒らのために学校が大量に購入して、その便宜を取り計らうという教育サービスを実施していたことになる。

板垣の今回の調査によって、石川県専門学校の前身にあたるとされる加賀藩の壮猷館などで購入された文献40冊ほども確認されたという。教育史的には、江戸期の藩校などと明治期の専門学校とを単純に直結してみることは当然ながら異論もあるが、残され引き継がれてきた文献図書(洋書類)という書誌学上では、地元の教育機関としての歴史的な系譜はこれをもって確かに認められよう(5頁)。加えて、なぜ石川県専門学校の洋書類が金沢大学附属図書館、石川県立金沢泉丘高等学校図書館、石川県立図書館に存在していたのかを改めて考える必要がある。石川県専門学校を母体にして第四高等中学校が設立されて、その後第四高等学校へと改称され、現在の金沢大学へと統合されていくという近代以降の石川県教育史の大きな流れがある。いっぽうで、石川県専門学校蔵書の一部は石川県へと移り、さらには石川県尋常中学校へ、または石川県立商品館へと移管された歴史もわずかながらもたしかにあったわけである。

本洋書目録を使用することにより、従来教育学史等に記載されている明治初期の高等教育の姿、- 具体的には学校の課程表(時間

表)に書かれた書籍、例えば「ホーセット氏経済学」は Fawcett, Millicent Gawett, Political Economy, Tokio, 1883., 「ダナー氏金石学」は Dana, James Dwight, Manual of Mineralogy, New Haven, 1877., であることが読み取られ、これらの書籍を直接手にとって読むことが可能である - をより一層深く研究することができる。当時の多くの教育機関は、ほぼ同じ書籍を使用していたことから、全国的な規模での解析を可能にするものである。

最後に、いくつかのことを今後の課題として要望したい。石川県専門学校に限らず、その後の第四高等中学校の洋書教科書類についても明かにしてもらえれば幸いである。また、石川県専門学校や第四高等中学校時代に学んだ生徒らの講義ノートなどについても所在確認してもらいたい。当時の専門教育の授業が実際にどのように行われていたのか、教科書及びノートなどからその実態解明を目指してほしい。この目録のサブタイトルにも挙げられている「明治日本の近代化に貢献した洋書」という意味合いはとても重要であると思われる。たとえば、1887年10月に第四高等中学校が設立された際、森下森八ら地元有志者が新刊であった英国製の『エンサイクロペディアブリタニカ』の一部献本を四高に対して行っているが、それはまさに「始終高等中学校ノ完全ナランコトニ助力シ、延テ全県教育ノ盛況ニ至ラン」(文相森有礼の祝辞)という地域社会全体の発展向上を示唆するものであったにちがいない。

*東京大学史史料室

資料館彙報(平成 16 年 11 月～平成 17 年 1 月)

- 8 月 30 日 金沢大学資料館資料目録 2『石川県専門学校洋書目録 明治日本の近代化に貢献した洋書』発行
- 11 月 8 日 石川県立金沢桜丘高等学校生徒来館
- 11 月 16 日 石川県立小松明峰高等学校生徒来館
- 11 月 17 日 敦賀気比高等学校生徒来館
- 11 月 24 日 『金沢大学資料館だより』 24 発行
- 12 月 8 日 大学院自然科学研究科森茂先生より資料移管
- 12 月 18 日 資料館長講演:金沢大学サテライト・プラザ ミニ講演「金沢大学資料館-語りかける“モノ”たち-」
- 1 月 19 日 駐日イスラエル大使ダン・アルベル氏来館
- 1 月 24 日 平成 16 年度第 2 回資料館委員会(書面付議)開催
- 1 月 30 日 金沢大学資料館資料目録 3『石川県専門学校物理機器図録明治 10 年代の物理学教育と文部省交付物理機器』発行

資料提供のお願い

金沢大学及び下記の前身校に関する資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ資料館へご寄贈くださいますようお願いいたします。ご寄贈いただいた資料は、貴重な歴史資料として永く保存・活用させていただきます。

金沢医科大学・金沢医科大学薬学専門部・第四高等学校・
石川師範学校・金沢工業専門学校・金沢高等師範学校・
石川青年師範学校、ほか

また、今年度退官・転出される先生方で、お手持ちの文書資料等を資料館にご寄贈くださる方はご一報下さい。よろしくお願いいたします。

金沢大学資料館だより 第 25 号

館長 笠井 純一(文学部教授)

館員 在田 則子

館員 田嶋 万希子

〒920-1192 金沢市角間町(附属図書館内)

金沢大学資料館

Tel (076)264-5215 Fax (076)234-4051

E-mail museum@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

発行日 平成 17 年 2 月 14 日

編集発行 金沢大学資料館

ホームページ URL

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~shiryo/index.html>